

1995

千葉県建築文化賞

第二回表彰作品集

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

第二回を迎えました千葉県建築文化賞に、多くの皆様方からのご応募をいただき、感謝申し上げます。

さて、平成7年度は、「さわやかハートちば5か年計画」の総仕上げの年として、計画達成に向け積極的に事業展開を図ってまいりました。

この5か年計画においては、日常生活に彩りを与える空間の整備、コミュニティの形成、高齢者・障害者への配慮など、自然と調和しつつ、県民が快適に暮らせる心地よい空間の整備を重要な事業として位置づけ、各種事業の展開を図ってきたところです。

こうした事業の一貫として、平成6年度に創設した「千葉県建築文化賞」は、建築文化、居住環境に対する県民の認識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを進めていくことを目的に、社団法人千葉県建築士会をはじめとする関係団体等の協力のもとに実施しているものであります。

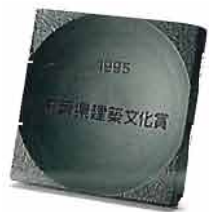
今回は73点の応募があり、選考委員の方々による4日間の現地調査を含む厳正な審査の結果、優秀と認められた「景観に配慮した建築物」及び「高齢者や障害者に配慮した建築物」それぞれ3点が表彰作品として選ばれました。

いずれの作品も21世紀を展望するまちづくりを先導する質の高い優れた建築物です。

平成8年度からは新しい千葉県を創造する「千葉新時代5か年計画」がスタートいたしますが、この新5か年計画においても、高齢者、障害者等が円滑に利用できるバリアフリー施設の普及推進、良好な景観形成の促進を県の重要な事業として位置づけており、千葉県建築文化賞がこれからもまちづくりの一翼を担い、優れた建築物を創出するための励みとなる表彰制度として、多くの県民の皆様を支えられ発展していくことを願っております。

終わりに、今後とも県民の皆様をはじめ、関係者各位のご理解、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

平成8年3月



総評・選考経過

選考委員長 守屋秀夫

第二回目となる建築文化賞に対して今年も多くの方々からご推薦をいただき、応募総数は73件(建築数では69点)となった。応募建築物の所在も全県下に広がっており、建築主、設計者などの関係者ばかりではなく、一般県民からの推薦も多かった。

審査は、まず推薦理由と写真などが貼付された応募図書を会場に展示し、各委員がこれらを一覧した後、賞の部門別に2段階の投票を繰り返す、討議を経て、計19点の建築物を選んで現地審査の対象とすることにした。現地審査は、すべてウィークデイの昼間に訪問し、それぞれの施設が本来の姿で活動している様子を見せてもらうようにした。なお、現地の審査に当たっては、現地の案内等に千葉県建築士会の会員のご協力を得た。

最終審査は、現地審査の報告のもとに全委員で討議を行い、話し合いによって表彰建築物を決定した。今回も、景観に配慮した建築物と高齢者、障害者に配慮した建築物というテーマのもとに募集を行ったが、このような配慮があるばかりでなく、そのことを除いても建築文化の発展を担う優れた建築物であることを選考の基本とした。

景観に配慮した建築物

今回は、自然を背景として建物の自然景観との調和を図ったものばかりでなく、市街地にあって近隣との町並み景観を配慮した作品が少なくなかった。

景観一般建築物の部門では、「千葉市美術館・千葉中央区役所」が市民にとって貴重な遺産である旧川崎銀行の建物を巧みに保存しながら、新しいランドマークを作った点が高く評価され、幕張の新住宅地に建てられた「千葉市打瀬小学校」が街の人に開かれたかたちの学校として提案され、児童ものびのびと生活している姿が感慨深かった。

これに対し、「千葉県薬草園研修館」と「千葉県いすみ環境と文化の里ネイチャーセンター」はいずれも好感の持てる建物ではあるが、

デザインの密度に今一步のもの足りなさが感じられた。

景観住宅の部門では、幕張新都心住宅地区(幕張ベイタウン)にパティオスの名称で作られている一連の集合住宅街区のうちすでに完成した6つの街区がそれぞれ応募された。

しかし、審査の過程で、これらの住宅棟は街区型の町並みをつくるよう申し合わせて設計しているため、6街区全体で一つの作品として扱うことにした。そして、このような形式の住宅団地はわが国では新しい試みであり、将来を示唆するものとして表彰することとした。

高齢者、障害者に配慮した建築物

老人・福祉関係の施設の応募が多かったが、一般の建築物で障害者の利用にも配慮が行き届いている作品がもう少し増えることを期待したい。

高齢者、障害者一般建築物部門では、「雇用促進事業団ポリテクセンター千葉研修寮」は、健常者に混じって歩行障害者ばかりでなく視覚障害者も収容し、しかも個室と教養室の両方を用意しながら障害者対応をさりげなくデザインしている点で評価された。「厚生年金サントール千葉」は、有料老人ホームであるが、娯楽施設や医療施設も整っているばかりでなく、格調の高い雰囲気をもたせているところがよい。

高齢者、障害者住宅部門では、「鋳持邸」を半身不自由のご主人の生活に配慮しながら、小住宅の気品も大切にしている設計への取組を評価して表彰対象に選んだ。「渡辺京子邸」も半身不自由のご老人が一人で留守居をしながら趣味の美術制作に打ち込めるよう配慮された住宅であり、「渡辺資二郎」は将来障害を負ったときのための準備を今から整えておくという発想の住宅で、見習うべきところもあり、ともに入賞に準ずるものとみてよいであろう。



景観に配慮した一般建築物

千葉市美術館・千葉中央区役所

所在地：千葉市中央区中央3丁目

施主：千葉市

設計：(株)大谷研究室

施工：清水・西松・ナカノ・三菱共同企業体



撮影：小林研二

市立美術館と中央区役所の複合施設として建設されたこの建物は、21世紀を展望した国際都市千葉の都心部にふさわしい気品と密度の濃さをもった建築物となっている。市民から非常に親しまれてきた旧川崎銀行の建物―大正期の建築様式、いわゆるネオルネッサンス様式の建築物―を、鞘堂(※)方式により正面ホールとして活用しながら、貴重な歴史的建築物の保存をしていくものである。

建築物全体の施設配置計画をみると、旧川崎銀行を正面ホールとして生かしたことにより、1階から5階までの中央区役所は、単なる庁舎機能だけではなく、新しい地域社会の拠点として、市民交流の場としても活用される。

また、6階から10階に配置された美術館は、広く市民に

親しまれる芸術文化の場としての配慮がなされている。

設計及び工事方法においても従事された方々の優れた英知が感じられ、また鞘堂の工事に当たられた職人の技術は想像以上のもので、すばらしい出来栄である。

千葉市美術館・千葉市中央区役所は、歴史的建築物と新たな施設とが融合しており、新たな保存方法として全国から注目されている。

このようなかたちで、人間と建築物との調和が図られ、未来への文化遺産として残されていくことは非常に意義深く、すばらしいことである。

※鞘堂

建築物を風雨、火災などから守るため、外側を覆うように設計された堂。

(青山 靖 委員)



所在地：千葉市美浜区打瀬1丁目

施主：千葉市

設計：(株)シーラカンス

施工：銭高・松栄共同企業体

景観に配慮した一般建築物

千葉市立 打瀬小学校



幕張新都心住宅地区に昨年開校した打瀬小学校は、都市街路型オープンスクールとして新しい教育環境の在り方に一石を投じた極めて魅力的な学校である。

街区形成に沿って開かれた小学校をコンセプトに、フェンスも校門もない開放的な空間構成で、市民も自由に通り抜けが可能なパスが設けられ、ピロティ越しに生徒の生活の様子が見え隠れる。街と内部空間との連続で生じる流動性を街に染み出すことによって、都市の風景をつくりだそうという狙いである。

外観や屋根の表情も変化に富んだリズムミカルなデザインで、心地よい優しさが伝わってきて共感を覚える。

全体計画は学年のまとまりを考慮して低、中、高学年の各ゾーンに分け、更に管理、特別教室、屋内運動場棟と6つのゾーニングで構成されている。各教室棟はワークスペースが十分確保されて多様な学習活動が可能となり、低学年棟はアルコーブや中庭を取り込んだ快適な生活空間として、まさに「学校は住居である」という理念が貫かれた教育環境である。

各棟を繋ぐ移動経路や中庭はそれぞれ変化に富んだ創造的な空間構成で、子供達が自発的に空間体験し、好奇心を喚起するに十分な楽しさが演出されている。



コンクリート打放しを基調とした緊張感溢れるデザインの中に、ほっとするような温もりのある色調や木の質感を大切に馴染みやすい建築空間がある。

子供達や先生方がみんな嬉々として生活を楽しんでいる姿に接し、社会が変わり、テクノロジーが進化し、文化が多様化する中で、教育環境も大きく姿を変え始めたことを実感させられた。

新しい時代を先取りした設計者の軸足の定まった視点と勇気ある提案に心から敬意とエールを捧げたい。

(明智克夫 委員)



景観に配慮した住宅 パティオス

所在地：千葉市美浜区打瀬2丁目

幕張ベイタウンのパティオスは2つの面で高い評価を得た。ひとつは街並みをつくる集合住宅であること。これまで多くの住宅団地は、オープンスペースの中に画一的な住棟を点在させることによって、都市的な表情に乏しい、表と裏のあいまいな環境をつくりだしてきた。パティオスで採用された沿道型住宅は、街区の外周にロの字形に住棟を置き、そこに住む人達の日常の場を中庭として取り込みながら、街路を縁どる連続的なファサードを形成することによって、ヨーロッパの街に見られるような都市性を感じさせる街並みを生みだすことに成功した。歩道と車道の段差をなくした御影石舗装のプロムナードと、街路沿いの1階に設けられたポルティコモ、街並み景観を魅力的なものにしている。

もうひとつはコンセプト実現のための都市デザイン推進体制。パティオスの6つの街区は、それぞれディベロッパーと設計者が異なっている。こうした場合、調和の取れた景観を生み出すには建築相互の調和をはかることが必要だが、幕張ベイタウンでは目指すべき街の姿を都市デザインガイドラインに定め、実現のための調整機関として計画デザイン会議を設置した。

地区レベルのデザイン調整をはかる手法として従来用いられてきたガイドラインやマニュアルに比べて、

このシステムは対話型の計画設計プロセスに対応する柔軟な調整手法であり、ここでそれが現実に稼働したことは大きな意義を持っている。また、この点に関して、前例のない方式の採用に理解を示した千葉県企業庁の英断にも拍手を送りたい。

パティオスにも問題点はある。たとえば、街路に比べて中庭の性格づけがあいまいで、日常生活の場にしてはいささか堅苦しい空間になっている点、街路空間が都市活動の舞台として設定されているのに、1階のテナント選定のようなソフト面の運用がそれに追いついていない点などは、今後に残された課題と言えるだろう。しかし、これらの問題点は、わが国では経験の浅い都市デザインへの挑戦がもたらした試行錯誤と考え、選考委員会では新しいシステムに対する意欲的な取組を積極的に評価した。

いずれにしても、この街はまだ誕生したばかりである。街並みをつくる集合住宅が、都市住宅の新しいプロトタイプとして成長することができるのか、それともヨーロッパ直輸入の単発的実験に終わるのか、今後とも期待をこめて見守っていきたい。

(北原理雄 副委員長)

5

●パティオス1番街

施主：三菱地所・住友不動産・東急不動産・新日本製鐵・東日本旅客鉄道
 計画設計調整：小沢 明
 設計：喜多徹夫・井上一三・山本成之
 施工：竹中工務店・奥村組・新日本製鐵建設共同企業体



●パティオス2番街

施主：幕張シティ
 計画設計調整：鈴木崇英
 設計：山下昌彦
 宇野 求
 タダシヤマグチ
 施工：フジタ





●パティオス全景

事業計画調整委員：渡辺定夫・養原 敬

●パティオス3番街

施 主：三井不動産・三井物産・鹿島建設・
第一生命保険

計画設計調整：曾根幸一

設 計：曾根幸一・大行 征・加藤義行・
榎本敏男

施 工：鹿島・京成・三井共同企業体



撮影：黒住直臣



●パティオス4番街

施 主：丸紅・東京建物・大成建設・大和ハウス工業

計画設計調整：藤本昌也

設 計：松永安光・坂本一成

施 工：大成・旭共同企業体



●パティオス5番街

施 主：野村不動産・川崎製鉄・松下興産・住友商事・東方不動産開発

計画設計調整：土田 旭

設 計：山梨知彦・神田駿・渋谷一彦

施 工：大林組・新日本建設・熊谷組・戸田建設共同企業体



●パティオス6番街

施 主：清水建設・興和不動産・
第一ホテルエンタープライズ・日本新都市開発

計画設計調整：大村虔一

設 計：芝原達明・秋元和雄・ジョン・R・コスリング

施 工：清水建設





高齢者、障害者に配慮した一般建築物

雇用促進事業団ポリテクセンター千葉 研修寮

所在地：千葉市若葉区愛生町165-2

施主：雇用促進事業団

千葉職業能力開発促進センター

設計：(株)榎本建築設計事務所

施工：長谷工・青山建設共同企業体



国際社会における日本の役割の一つとして、技術指導を通して国際貢献が様々な分野で求められている。千葉市稲毛区に建てられたこの施設は、国内の職業訓練をはじめ、技能検定やILO・JICAなどの国際的活動を支援するためのものである。

今回対象になったのは、既存施設の全体建て替え計画のうち、先行して建てられた研修寮である。

職業能力開発という目的を通して、若者から高齢者まで、健常者も障害者も気持ちよくのびのびと研修が受けられるように、随所に細かい配慮がなされている。全体として明るい印象を与える建物である。核となる食堂棟は、単独使用にも配慮し、ラウンジ、コミュニティーコーナー・テラスが一体感を持ちながら、内外を含めて開放的な設計がなされている。

特に肢体障害者用の1階の寮室においては、直接屋外にも出られるようにアルミサッシに細工をし、安全性・解放性を高めている。接地性を生かし、ビジター同士が行き来しやすくなる雰囲気を作り出している。

視覚や聴覚障害者の人達に対してもそれぞれの障害に合わせて細かな配慮がなされている。建物全体としては、アプローチ側を低層に押さえたことで、前面の広場とのつながりが良くなっていて、今後の計画が楽しみである。

この施設が、これからの国際交流や福祉の街づくりにとって一翼を担い、地域に開かれた場となって行くことを願っている。

(工藤和美 委員)



所在地：千葉市中央区仁戸名682-67

施主：千葉県

設計：(株)日本設計

施工：安藤・三井・福田・鈴木
建設工事共同企業体

高齢者、障害者に配慮した一般建築物 厚生年金サニテール千葉

千葉市仁戸名町の、大網街道に接して建てられている厚生年金生活者のための有料老人ホームである。

建物は、三角形の地形の上に、大網街道に平行して背を向ける形で9階建ての高層の棟が立ち、その奥の下り斜面に、高層棟と45度の角度で三角形の他の一辺に沿って3階建ての低層棟が配置されている。

大網街道に面して高層棟があるため、道路からの景観としては圧迫感をいねめないものの、道路の騒音を遮り、内側に落ちついた住環境を作り出すことに成功している。二つの棟に挟まれているという感がない。高層棟は東向きで低層棟は東南向きであるが、住戸の区切りを45度振ることで、個々の住戸の向きが高層は東南向きに、低層は南向きとなり、三角形のスペースを生かして眺望の良い実に心地よいサンルームを設けるとともに、外観に波状の曲線を作り出している。

住戸内は一人用が44m²、二人用が49m²と決して広くはない。しかし諸設備は高齢者対応が十分なされており、使い勝手の良い間取りである。

特に良いのは共有部分にある。集会室、ホビー室、プール、介護室、美容理容室、食堂などに広いスペースがとられており、集会室やプールは地域の人にも開放している。

このホームは高級というのではないが、上質でありソフト面と合いまって快適な暮らしを提供している。

(川上昌子 委員)



撮影：廣田治雄



撮影：日刊建設工業新聞社



高齢者、障害者に配慮した住宅

釧持邸

所在地：木更津市高砂2丁目

施主：釧持 毅

設計：加瀬澤建築設計室 加瀬澤文芳

施工：大坪清次

釧持邸は、庭続きの母屋を長男家族に譲り、独立した18坪の“離れ”として建てられている。

敷地の余裕があって実現した高年夫婦住居の理想型といえる。高年生活は、いずれ訪れる身体の不自由と介護やリハビリの必要を予測しておかなければならない。

釧持邸の場合は、ある日突然にご主人が発病され、半身の不自由を支える住居が必要となって、それが新築の動機となったが、この家には、手すりの追加取付ができるなど、高年夫婦の加齢に伴う身体や生活の変化に求められる様々の工夫と心配りが、丁寧しかも簡潔に設計されている。

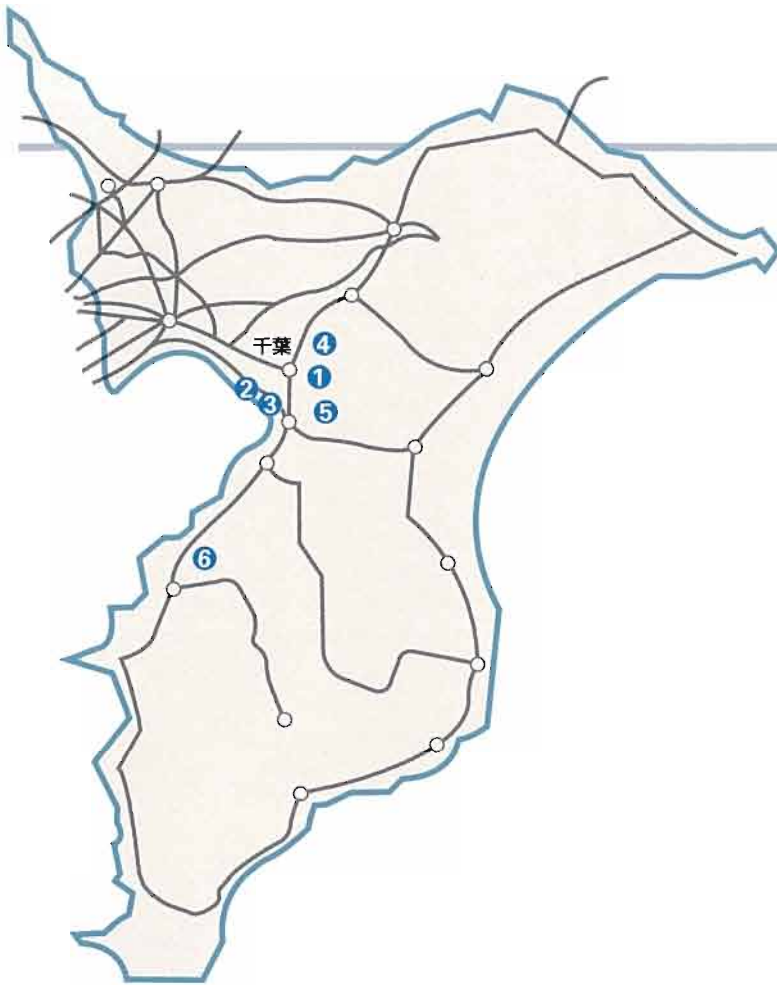
長く親しんだ木造、畳の寝室、トイレや浴室と台所などの機能設計、歩行や車椅子に楽な段差のない床面、広いリビングルームは安全な床暖房、南面一杯の広々としたガラス戸は冬の陽だまりも心地よく、さらに内と外とを結ぶ縁側の開放感もあつて、趣味の仕事を広げるもよし、リハビリ生活も快適、施主の希望をすべて満足させた。まことに良きホームドクターである設計者を得たといえよう。

最終選考では、館山と柏の両渡辺邸が併せて検討されたが、釧持邸は高年夫婦のための住居のまさに原型を示す設計、施工として評価された。

(野口瑠璃 委員)



表彰作品所在



表彰作品

- ① 千葉市美術館・千葉中央区役所
- ② 千葉市立 打瀬小学校
- ③ パティオス
- ④ 雇用促進事業団ポリテクセンター千葉 研修寮
- ⑤ 厚生年金サントール千葉
- ⑥ 釧持邸

現地調査の対象となった作品(表彰作品を除く)

- 渡辺京子邸 (鴨川市)
- 千葉県葉草園 研修館 (大多喜町)
- 千葉県いすみ環境と文化のさと
ネイチャーセンター (夷隅町)
- 宮村邸・園部邸、館山の家 (館山市)
- 渡辺資二郎 (柏市)
- 柏市南部老人福祉センター (柏市)
- 第一勧業銀行千葉事務センター (印西市)
- 谷嶋医院 (千葉市)

選考基準

1. 千葉県内において、平成2年4月1日から平成7年3月31日までに完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰の趣旨に適合しているもの。
2. 優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ① 地域の特性や周辺の環境に十分な考慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ② 安全性、快適性、利便性に優れ、高齢者や障害者がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易にできるような環境整備がなされているもの。
3. 建築基準法等の各法令に適合しており、近隣との紛争が生じていないもの。

選考委員

※敬称略・順不同

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 委員長 守屋秀夫：千葉大学工学部教授 | 委員 明智克夫：千葉県建築設計監理協会会長 |
| 副委員長 北原理雄：千葉大学工学部教授 | 委員 鶴巻昭二：新日本建築家協会千葉代表 |
| 委員 工藤和美：(株)シーラカンズ代表取締役 | 委員 辻 宜志：千葉県建設業協会専務理事 |
| 委員 野口瑠璃：(株)GK取締役社長 | 委員 渡邊 保：千葉県社会福祉協議会常務理事 |
| 委員 山田 昇：読売新聞社写真部部長待遇 | 委員 海老根寧：千葉県身体障害者福祉協会理事長 |
| 委員 川上昌子：淑徳大学社会学部教授 | 委員 石橋暎壽：千葉県社会部長 |
| 委員 周郷紀男：千葉県建築士会会長 | 委員 久我陽一：千葉県都市部長 |
| 委員 青山 靖：千葉県建築士事務所協会会長 | |



デザイン：株式会社 G K
制作：株式会社 菊地保寿堂

共催・後援・協賛団体一覧

共 催 (社)千葉県建築士会

後 援 建設省
(社)千葉県建設業協会
(社)千葉県建築士事務所協会

新日本建築家協会・千葉
千葉県建築設計監理協会
(福)千葉県社会福祉協議会

(福)千葉県身体障害者福祉協会

協 賛 千葉県住宅供給公社
(財)千葉県都市公社
千葉県土地開発公社
(財)千葉県都市整備協会
(財)千葉県地域整備協会

住宅・都市整備公団
京葉ガス(株)
千葉ガス(株)
大多喜ガス(株)
千葉県昇降機等検査協会

第二回千葉県建築文化賞にご応募いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。
応募総数73件の中から6件を千葉県建築文化賞として表彰させていただきましたが、この他にも優れた建築物は数多くありました。建築文化賞はこれからも続けてまいりますので次回への御応募を期待しております。
最後に千葉県建築文化賞に後援・協賛をいただきました団体の皆様に厚く御礼申し上げます。

お問い合わせ先

千葉県都市部建築指導課
〒260-91 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043-223-3186

(社)千葉県建築士会
〒260 千葉市中央区長洲2-12-25
TEL.043-222-0109

千葉県